

平成26年度第1回 平塚市環境審議会の概要

日 時 平成26年6月30日(月) 14時00分から16時00分

場 所 南附属庁舎2階 E会議室

出席者 室田会長、糸原委員、小川委員、鈴木委員、西尾委員、秋山委員、松原委員、野口委員、石田委員、伊藤委員、大畑委員、内山委員
(事務局) 副市長、環境部長、環境政策課長ほか

議 題

- (1) 平塚市環境基本計画関連事業の平成25年度実施状況について
- (2) 平塚市新エネルギービジョンについて

会議の概要

1 開会

2 委嘱式

3 諮問

4 議題

- (1) 平塚市環境基本計画関連事業の平成25年度実施状況について

○会長

議題(1)「平塚市の環境基本計画関連事業の平成25年度実施状況」(資料1)について事務局から説明を。

◇事務局

資料1「平塚市環境基本計画(改訂版)進捗状況報告書」により説明。

○会長

ただ今事務局から説明いただいた内容について、ご質問ご意見はあるか。

○委員

環境の施策をやって評価する場合、映像で記録することが大事。環境部としては映像記録はあるのか。

◇事務局

啓発用の映像はあるが、計画もののデータ等の映像化はほとんどないと思う。あとは施設の特徴などの紹介は実際に映像であるがそれ以外についてはほとんどない。

○委員

森がこんなに変わりました、という施策に○の評価がついている。いい里山、自然、森ができた時に、どう変わったから市民が利用しやすくなったのか。鳥の声を聴くことができるようになった、川がきれいになってアユやボラが帰ってきたなど、映像で記録されることが、次の時代に引き継いでいくときにすごく大事になっていく。

進捗状況報告書の2ページの4つの基本方針 2自然と人との共生の確保のところ、身近な自然を大切にするとともに、これらの自然とのふれあいを図り、生態系の一員として自然と人との共生を図ります、とあるが、自然と人がふれあうことで市民の健康づくり

に貢献をするということがここに盛り込まれていないといけないと思う。超高齢化社会の中の健康づくりにどれだけ貢献するかという面から環境を整備することも考えられるのではないか。

○会長

環境基本計画に健康増進という文言を盛り込むかどうかということか。

◇事務局

環境基本計画の上位計画に総合計画がある。その中で上位計画と個別計画の整合性を図るようになっている。環境基本計画と健康増進関係の計画との直接のつながりはないが、総合計画の中には両計画とも位置付けられているので、そういった意味では整合性が図られている。

○委員

健康づくりという言葉が盛り込まれているかどうかで横の連携が取れているかを市民が評価する上で重要。できればそれを映像で見せてくれるとなおよい。

○会長

映像化はできるものとできないものがある。

○委員

防災との関係でも自然の丘陵や里山が重要。湘南平に5方向くらいから小学生が上げられるようにすることが必要。

○会長

さきほども事務局から話があったように、上の計画と連携が取れている。

○委員

総合計画の中でその辺りの連携を取ってくださいという意見として取っておけばよいのではないか。

◇事務局

この場はあくまで環境に関する計画が専門の審議会であり、総合計画はまた別の形で実施報告がされている。委員のお話にあったように、総合計画の中での連携については企画政策部に投げかけはしてみるが、環境基本計画の中では現時点ではお答えできない状況なのでご理解をお願いしたい。

○会長

進捗状況報告書について○の評価が多くある中で、環境ファンクラブの会員数、共生型企業懇話会の参加企業数、耕作放棄地の面積、等△・×の施策についてご意見・ご質問等あるか。

○委員

進捗状況報告書5ページの里山を保全し再生するという施策の柱の中で、里山保全モデル事業の開催があるが、実際はどのような事業を開催しているのか。

◇事務局

里山保全モデル事業とは、里山保全協議会を作っており、地権者や学識経験者、里山保全団体、地域の子どもたち、ジュニアリーダーが参加している。頭無という昔はコクチョウやオオムラサキがいた自然豊かな土屋の地域を面積約1万平米ほど市で借りて、率先して里山保全再生事業を行っている。回数としては7回、5月、10月から3月まで毎月山に入り、草刈りや枝落とし、伐採などを行っている。

○委員

昨年はジュニアリーダーの中学生が体験に来て、枝払いをしてとても有意義に過ごせたと思う。幼稚園生など小さい子どもは山の自然とのふれあいを体験しているが、中学生はほとんどふれあいがなくなってしまい、里山教育の空間ができてしまう。それをどうにかジュニアリーダーだけでなく一般の中学生にも参加してもらえたらいいのではないかと思う。そのような機会をもっと増やしていただけたらと思う。

◇事務局

東海大学、神奈川大学、平塚市で大学交流事業として委員も活動されている里山体験フィールドを利用して田植え、草取り、稲刈り、脱穀、里山祭を開催している。子ども環境教室の里山編として、小中学生とその保護者を対象にも開催しているが、委員が言われたように中学生から高校生くらいが一番参加人数としては少ないと感じている。

できるだけ中学生、高校生の参加が得られるように努力していきたいと思う。

○委員

進捗状況報告書15ページの大気環境汚染状況の監視測定等の実施では、PM2.5も常時測定しているのか。

◇事務局

測定した結果はホームページで見ることができる。

○委員

これは何日くらい非達成だったのか。

◇事務局

光化学スモッグは一桁台だったと思うが、PM2.5については11日あった。年平均と1日平均とがあるが、年平均では超えていないが、1日平均としては基準値を超える日が11日あった。

○委員

市だけで対策をするのは難しいと思うが、測定結果のPRには是非努めていただきたい。

(2) 平塚市新エネルギービジョンについて

○会長

議題(2)平塚市新エネルギービジョンについて、前回の審議会の中で、現行の新エネルギービジョンを地球温暖化対策実行計画に盛り込むということと、盛り込んだ上で神奈川県スマートエネルギー計画の内容も平塚市にあったものにしていくということで、最終的には廃止の方向が決まった。その件について先ほど市長から諮問をいただき審議会の意見を答申するという手続きを取っていきたいと思う。そのことについて、事務局から説明をお願いします。

◇事務局

資料2「平塚市新エネルギービジョンの進捗状況等まとめ」により説明。

○会長

ただ今説明いただいた内容について、ご質問ご意見があったら、お願いします。

○委員

新エネルギービジョンの67ページで「ミニ新エネルギーシステムの貸し出し制度」とあるが、一定期間、ホームページや広報に載っていたのか。

◇事務局

太陽光パネル1枚、小型の風力発電、ソーラークッカーなどがある。実際には借りられ

る方は少ないが、イベントで展示したりしている。

○委員

屋根貸し制度は有効なのか。

◇事務局

施設が新しくないということと、学校も対象になるが、市の施設は屋上に物を設置するという基本設計がなされていないので、その辺りも交えて担当課と調整が必要になってくる。

○委員

LEDの普及は100%にならないのか。

◇事務局

今年度中には市が所有する防犯灯は約6500灯が全てLEDになる予定。

○委員

自治会所有の分はどうか。

◇事務局

自治会は今のところ補助制度で対応している。

○委員

できるものは太陽光と電灯のLED化くらいで他にはあまり有効なものがないように思う。だからこの2つに集中する気がする。

◇事務局

実現性がはっきり分かっているのはそのくらい。平坦な土地で風力や水力などの資源が活かしづらいという平塚市の特性もあり、有効なものがない。

○委員

約6500灯のLED化というのは画期的だと思う。

◇事務局

神奈川県では創エネ・省エネ・蓄エネの取り組みを推進しているが、平塚市では創エネには限界があるので、加えて省エネをしていく中で使う電気、エネルギーを減らす。一方で創る電気、エネルギーを少しずつ増やしていく。それが、地域の中でエネルギーを創っていくというところの中で1つのエネルギー施策となるのではないかと考えていく。

○委員

市が管理している防犯灯は今ものすごいスピードでLED化を進めてくれている。金目地区も急ピッチでやっていてありがたく思う。

○委員

テレビで見たが、ペレットストーブは平塚市では推奨しているのか。

◇事務局

住宅地で物を燃すのは近隣と揉めるケースがある。木を燃やすとなると匂いや煙が出てしまう。燻された匂いや煙が出るものに対してはなかなか率先して進めていくには理解を得るには難しい。

○委員

資料2：中長期プロジェクト④自家用のバイオガス小型プラントの導入のところで、課題があるので導入については難しいという説明だったが、評価は○になっているのは説明と評価が合っていないような気がする。

◇事務局

事業の位置付けとしては、中長期プロジェクトというのは実用化できるものはやってみましょう、それまでは研究・検討が中心という位置づけになっている。そういった意味で、今の段階では実用性を考えていくと、事業化できる内容ではないということでご説明した。中長期プロジェクトは大体が研究・検討からスタートしているので、事業化していないものがあるという意味では×になるが、調査研究をしたという意味で○にさせていただいた。

○会長

その他あるか。

○委員

中期、長期はどれくらいの年数で考えているのか。

◇事務局

中期が平成17年度から22年度、長期が平成23年度から44年度と定めている。

○委員

資料2：重点プロジェクト「クリーンエネルギー自動車の導入」①公用車への導入で、ごみ収集車にももっと天然ガス車の導入をして欲しい。

◇事務局

もともと市内にあった充填施設がなくなってしまい、近くだと寒川町が厚木市まで行かないと天然ガスが充填できなくなっているという現状がある。

○委員

映像をどう捉えるかという部分で、昔こうだったけど、今はこうなりましたというものは一部はやられていると思うが必要だと思う。特に環境に関してはビジュアルでビフォーアフターを見せるのは非常に分かりやすいので、そういう意味では非常に良い提案だと思う。

○委員

地球温暖化に対して国の目標、県の目標はこうだから平塚市はこうしなさいという目標値は何らかの形で出ているのか。

◇事務局

平塚市地球温暖化対策実行計画の中では国が示した「平成32年までに二酸化炭素の排出量を京都議定書の基準年比で25%削減」という目標を取り入れている。ただ、国は暫定という言葉を使っているが、目標値を変えているのでそこをどうするか平塚市も検討しなければならないと考えている。

当初掲げていた目標よりも後退するような数値になると思うが、経済産業省のエネルギー施策が決まってから環境省の目標値が決まる。国が明確な目標値を示すまでは、平塚市の目標値も変えることなく現在のまま維持していくことが望ましいのではないかと思う。

これはあくまでも中期的な話だが、長期的には80%削減が本来の目標なので、そこを目指すということでは変わらない。

○委員

これ以上地球温暖化が進んだら後戻りできないという分岐点がある。それに対していつまでに目標を達成しなければならないか我々市民が危機感を持たなければならない。

例えば、進捗状況報告書の37ページ施策の柱「地球温暖化防止に取り組みます」の新エネルギーの導入促進の中で、実績が出て評価は○になっているが、自己評価として厳しくしたらこれで本当にいいのか。国のデータなどから計算できないか。これでは危機感が

感じられない。

◇事務局

二酸化炭素の排出量ということでは、統計を基に推計をしている。そういった中で全体的に排出量が減っているのか確認して公表している。1つ1つの施策という部分では、それだけで全てがまかなえるという形での評価は難しい。

ひらつかの環境という年次報告書で、平塚市域と平塚市役所の二酸化炭素排出量の数値を毎年度出している。

○会長

二酸化炭素が地球温暖化の原因になっているかどうかというのも今議論されている段階で、危機感がないというのは、身近な問題ではない、他人事になっているから。学生に話をしても他人事で自分のことではないという感じがする。委員の皆さんは危機感を感じられるか。

○委員

パソコンやテレビで、南極や北極の状態、世界の至る所でどのようなことが起こっているかを見ることができる。海水温が上がると東京都内の下町が全て沈んでしまうというデータを見ると、今の目標がそれがおさまる程度のものなのか心配になる。

○会長

それは誰にも分からないことで、IPCCなどはそうだと言っているし、そうではないという団体もたくさんある。北極や南極がどうなると言われても自分の生活には直結しないので危機感がない、そこが問題。

○委員

1日のうちに何時間か停電するようなことが市民の生活にあってもいいように思う。

自動販売機もどんどん増えているが、あのエネルギー消費もすごいので、設置の制限について国が態度で示してほしい。

○委員

自動販売機は無尽蔵に設置してもいいものなのか。市でガイドラインのようなものはあるのか。

○委員

メーカーとして採算が合うか合わないかだと思う。

例えば停電の話があったが、停電があると冷蔵庫も止まってしまうので、大被害を受ける。計画停電は実際には難しいのではないかとは思いますが、何かしなければならぬという点は理解できる。

○会長

科学的に実証されていなくてもやれることはやっぴいこうという姿勢は大切だと思う。

その他あるか。

先ほど市長から諮問をいただいた件だが、新エネルギービジョンについては、審議会として地球温暖化対策実行計画に現行の新エネルギービジョンを盛り込んでいき、かつ神奈川県スマートエネルギー計画の内容も平塚市に合ったものにして、そこに差し込んでいくということで答申をするということによろしいか。

○委員

異議なし。

○会長

事務局には本日の審議会の意見をもとに答申のとりまとめに向けての準備をお願いする。最後に何かあれば。

○委員

進捗状況報告書43ページの重点施策で廃棄物の発生抑制・資源化・適正処理の推進とあるが、市民1人が1日に排出するごみの量が目標912gに対して実績が907gとあるが、具体的にはどういった施策があるのか。

◇事務局

例えば、環境教育という面では、進捗状況報告書9ページ、10ページに「環境市民を増やします」という施策の柱がある。わかば環境ISOは学校、幼稚園の中でごみを出さないような生活をしていきたいと思いますという取り組み。ごみ学級では、市の職員が学校に向いてごみの分別について説明する取り組みがある。

○委員

ごみ減量化婦人の会はどのような活動をされているのか。

○委員

地域では自治会で対応しているが、ごみ減量化婦人の会では年3回、駅前で水切りパックを配布したり、公民館まつりでごみの減量化の啓発活動を行っている。マイバッグ持参の呼びかけは年2回行っている。

○委員

ごみ資源化率は出たごみのトータルに対しての資源化率なのか。

◇事務局

ごみを焼却した後の焼却灰については、今まで遠藤原の埋め立て処分場に埋めていたが、平成25年10月からはこの焼却灰についてはリサイクル業者に出して再利用している。そのことで、埋め立て処分場の延命化とごみの資源化率の向上につながった。

○委員

焼却場にくるごみの100%が資源化できているということか。

◇事務局

燃せるごみに混じっている燃えない金属はリサイクルできていないが、基本的には焼却灰は再資源化業者に出され、そこで不適物という形で選別される。適しているものは路盤材等で利活用されている。

○委員

目標25%は難しいのではないか。

◇事務局

今後の計画としては剪定枝の資源化をしていく計画があるので、燃す必要がなくなってくれば、また資源化率が上がってくると思う。

○会長

時間になったので議事を終了し、進行を事務局にお返す。

◇事務局

今後の予定、みどりのカーテンコンテストの審査のお願いとひらつか環境フェアについて連絡。

閉 会